

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設	秦野精華園
指定管理者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間	H18.4.1 ～ H28.3.31
施設所管課	障害サービス課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

地域生活移行を目指した有期限利用の施設として、積極的に利用者の就労支援や地域生活移行に取り組んでいる。また、触法障害者を受け入れて地域での自立生活に向けた支援を行うなど、新たな利用ニーズにも対応しており評価できる。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月8日	11月8日	○	－	－	無	
11月	12月11日	12月11日	○	－	－	無	
12月	1月10日	1月10日	○	－	－	無	
1月	2月7日	2月7日	○	－	－	無	
2月	3月12日	3月12日	○	－	－	無	
3月	4月1日	4月1日	○	－	－	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	知的障害者支援施設（入所）及びチャレンジセンター（通所）の多機能型の日中活動における利用者支援へのサービスの向上のため、有期限利用の前提の中で、地域生活移行を目標に個々の利用者の自己実現とステップアップを重視した支援を実施します。	地域生活移行等を支援するために、社会診断会議を実施するとともに、日中活動における支援方法を確認しながら、本人やご家族の意向も踏まえ、新たな暮らしの場への移行を推進した。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会診断会議 27回実施。 ・他法人のケアホームへ1名、在宅へ1名が移行。

	提案内容	実施状況
2	<p>ネグレクト等被虐待経験知的障害者や矯正施設退所後の触法知的障害者を受け入れ、生活・職業スキルのステップアップ支援を実施します。</p>	<p>「ネグレクト等地域移行支援プロジェクト」を中心に次のような取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・23年度から対象利用者5名に対して継続な支援を実施。（プロジェクトを6回開催。） ・SST（社会生活技能訓練）支援のスキルアップに向け、10月に職員3名がSST中級研修、1月に職員2名がSST初級研修を受講するとともに、11月及び2月にSST普及協会認定講師による研修会を開催。（18名参加） ・SST支援の対象者延べ36名に対し、SSTを7回実施。 ・職員向けに内科医によるネグレクト等虐待に関する勉強会を2回開催。（34名参加） ・臨床心理士による触法経験者への心理面接を実施。（対象者7名に延べ56回） ・全国的障害関係職員研究大会（10月）において、職員2名が「触法被虐待等社会擁護を必要とする障害者の入所支援を活用した地域移行プログラムの作成と検証について」を発表。 ・「福祉のトップセミナーIN雲仙2012」（11月）に職員1名が参加。 ・入所支援対象者1名（男性）が、3月に退所し、他事業所のケアホーム（就労継続支援B型）へ移行。
3	<p>職場はもとより、実習先の開拓や就労支援、就職後の定期的な訪問支援等により、知的障害者の就労等の基盤整備を推進します。</p>	<p>当園のジョブコーチ、職場開拓員、生活ホーム担当職員等が職場開拓や実習・就労支援、就職後の定期的な訪問など適時に必要な支援を継続的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョブコーチ支援24回、就労者継続支援119回、企業実習26回、ハローワーク等求職支援45回、職場開拓訪問6回、企業見学支援6回、面接試験支援13回を実施。 ・10月から3月末の間に在宅利用者6人、生活ホーム・施設利用者3人が就職。
4	<p>様々な要因から就学期に学校における教育を受けることが出来なかった利用者及び就学期に該当する利用者に対して教育的なアプローチの支援を推進します。</p>	<p>就学期支援プロジェクトを中心に次のような取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的な関わりについての理解を深めるための教育機関見学を実施。（秦野養護学校・平塚盲学校各1回） ・生活3課利用者を対象にモンテッソーリ教育教材による余暇活動を毎月1回実施。 ・東海大学生ボランティアによる漢字学習会（3回）や教員志望の学生による模擬授業（1回）を実施。 ・利用者からの学習のニーズに対して、プロジェクトの職員による学習会（1回）を実施。
5	<p>児童入所施設の加齢児の受け入れや、児童養護施設、児童相談所一時保護所、特別支援学校等からの知的障害児の積極的受け入れを推進します。</p>	<p>地域の児童相談所や近隣の特別支援学校・児童養護施設と連携を図りながら受け入れ等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の通所体験16名 延べ65日実施。 ・児童入所施設からの入所、通所体験5名実施。 ・児童入所施設からの進路相談8名実施。

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)					0		0
予算額	前年度	202,733	463,898	101,998	768,629	758,046	10,583
	上半期	101,366	231,949	50,999	384,314	379,023	5,291
	下半期	101,367	231,949	50,999	384,315	379,023	5,292
	今年度	202,733	456,575	74,439	733,747	725,135	8,612
	上半期	100,938	228,287	37,219	366,444	362,567	3,877
	下半期	101,795	228,288	37,220	367,303	362,568	4,735
下半期実績額	10月	15,289	40,981	16,573	72,843	45,297	27,546
	11月	15,289	39,451	7,794	62,534	51,778	10,756
	12月	25,360	40,139	11,334	76,833	95,824	▲ 18,991
	1月	15,289	40,467	6,727	62,483	55,854	6,629
	2月	15,289	36,009	7,896	59,194	48,265	10,929
	3月	10,790	39,515	18,260	68,565	84,180	▲ 15,615
	今年度 下半期合計	97,306	236,562	68,584	402,452	381,198	21,254
	前年度 下半期合計	101,795	232,884	56,620	391,299	381,222	10,077
	対前年度下半期比			③	2.9%	0.0%	
参考	今年度 上半期合計	100,938	243,455	43,162	387,555	344,546	43,009
	今年度 合計	198,244	480,017	111,746	790,007	725,744	64,263

①

②

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	○	耐用年数を経過した備品類の修繕、更新費用と予備費を計上。
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等

基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：大規模修繕：指定管理者と協議、各所営繕工事・計画修繕工事：県、これ以外：指定管理者

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	2,780	空気調和機分解整備工事（2,341千円） 訓練棟ボイラー用排水管取替工事（439千円）
合計	2,780	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等

2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等

3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	142 人	149 人	▲ 4.7 %
11月	140 人	150 人	▲ 6.7 %
12月	139 人	146 人	▲ 4.8 %
1月	139 人	147 人	▲ 5.4 %
2月	140 人	146 人	▲ 4.1 %
3月	139 人	148 人	▲ 6.1 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	960 人	866 人	869 人	▲ 9.8 %	▲ 0.4 %
今年度下半期計	960 人	839 人	886 人	▲ 12.7 %	▲ 5.4 %
今年度合計	1,920 人	1,705 人	1,755 人	▲ 11.2 %	▲ 0.0 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	・就労支援強化の成果があり、企業等への就労移行が進んでいるが、その反面入所・通所において就労移行支援事業に定員が満たない状況が生じた。
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	4	3	4	0	0	11
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数	0	3	1	0	0	4
下段：報告件数のうち所管課受付分	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

中軽度の知的障害者の就労支援に関しては昨年を大きく上回る実績（下半期：就労9名、実習18名）をあげることができた。一方、通所のチャレンジセンターにおいては障害者雇用率の上昇等により、就労支援が進む反面、依然として定員が埋まらない厳しい状況となっている。今後も関係機関（市町村・事業所・相談事業等）との積極的な情報交換や障害児施設や養護学校への説明会の開催等により、継続的にニーズの掘り起こしに努めていく。

就労支援事業においては、入所の就労移行支援は上半期に秦野市市営プールの売店販売があり大幅な作業収入の増により工賃のアップにつながり、入所・通所の生活訓練についても一般企業からの外注作業や花プランターのリース等の受注増により、工賃のアップすることができた。しかしながら、通所の就労移行支援、就労継続B型・A型のクリーニング・製パン作業においては、依然として作業収入等の伸びについては厳しい状況にある。

次年度も積極的な作業種目の拡大を前提に取り組みを進めていく。

特色ある支援として、ネグレクト、触法等経験者の支援のための職員研修の充実を図るとともに、SST（社会生活技能訓練）のプログラムを継続的に実施し、引き続き職員のスキルアップに取り組んだ。また、「ネグレクト等地域移行プロジェクト」として、10月の全国知的障害福祉関係職員研究大会において、当該事例に基づき「触法被虐待等社会擁護を必要とする障害者の入所支援を活用した地域移行プログラムの作成と検証について」発表を行い、全国の関係施設からの反響があった。

「就学期支援プロジェクト」としては、モンテッソーリ教育プログラムを取り入れた支援活動を定期的に行いました。また、東海大学生のボランティアによる学習会にも取り組み、プロジェクトに関わる職員が利用者からの学習ニーズに応えるプログラムも発足した。